

復旧と復興の「踊り場」における復興グッズ支援の変化
ハートニット・プロジェクト
(岩手県盛岡市)の事例

清水 亮(東京大学)



はじめに

- 大規模災害時の復旧段階における「復興グッズ」製作
 - 日銭稼ぎ(cash for work)
 - 生きがいづくり
- 製作継続のためのグッズ販売
 - 売らないと作れない
- 販売継続のための試行錯誤
 - 〈モラルエコノミー〉として販売できる期間は限定的
 - アマチュア発からの市場参入は困難
 - 市場経済との対抗としての〈ボランティア経済〉
- 復旧・復興の「踊り場」と次なるステップ

ハートニット・プロジェクト

- 立ち上げ: 2011年5月5日
- 拠点: 盛岡市
- 活動: ニット作品の製作と販売
 - 製作…ニットカフェ
 - 販売…イベント等の販売会・常設販売
- 構成: ボランティア(支援者)とアミマー(作品製作者)
 - 代表…編み物の専門家
 - 事務局1名
 - 事務局支援者(仕分けボランティア)10~15名程度
 - アミマー(作品製作者)70~100名程度
 - 各地の販売支援者 多数

きっかけ

- 義援物資の収集と被災地への搬送・配布
 - 雫石のスキースクール関係者のボランティア活動
- 心のケアとしての編み物
 - 物資がある程度行き届いたところで、こころの問題
 - 女性の視点
- マラソンのたすき製作と作品の販売
 - いわて銀河100kmチャレンジマラソンのたすき製作
 - 作品販売の開始



2011年	出来事
3月11日	東日本大震災発生
3月15日	スキー仲間に義援物資の提供依頼
3月16日	義援物資の搬送・配布開始
3月22日	物資提供要請の一時休止
3月30日	編み針(棒)、毛糸の提供依頼
4月2日	毛糸仕分けの作業手伝い依頼
4月4日	「ひまわり手芸店」とのタイアップの相談
4月6日	毛糸、編み図、編み針をセットにした手作りキットの作成
4月10日	大船渡への物資搬送・配布(編み物キットの初配布)
4月25日	癒やしの編み物から経済活動としての編み物への構想
4月26日	「いわて銀河100kmチャレンジマラソン(6/12)」用のタスキ製作
5月5日	「ハートニットプロジェクト」の立ち上げ
6月11日	いわて銀河100kmチャレンジマラソン開会式でのタスキ贈呈式および初販売会
6月12日	いわて銀河100kmチャレンジマラソンゴルフフェスティバル



ニットでハートを繋ごうプロジェクト

スキー愛好者のボランティアグループが、日本中から毛糸を集めました。これらの毛糸で編み物をなさいませんか？

それらの作品を私たちが販売させていただきます。

只今、このプロジェクトに参加して下さる方々を募集しています。個人でもグループでも結構です。大勢の方々のご参加をお待ちしています！



斜めガーター編みの
ネックウォーマー



ヘアーバンド
ネックウォーマー
帽子へと自由に変身



アフガン編みの
ヘアバンド



グレーとアイボリー2本
取りで箱降り



ネックウォーマーがお襟に

<作品販売のしくみ>

- 作品の製作・・・被災者の皆様とボランティア編み手が作品作りに当たります
- 作品の販売・・・いわて銀河マラソン会場・スキー新作発表会・スポーツ店
ネットショップ（立ち上げ準備中）
- 売上金・・・作品の売り上げ金全額を編んで下さった方にお届けします

<作品の種類>

第一段階として準備していますのは、ネックウォーマー・ヘアバンド・帽子の様な編み図です。販売会場を6月から始まる全国のスキー展示会に照準を合わせています。

第二段階からは、作品の幅を拡げていく予定です。リクエストなどお聴かせ下さい。

材料となる毛糸は充分準備していますので、お一人でも多くの方に多くの作品を作って頂けたらと思います。

※手編みは時間が掛かりますが、編んでいるときは充実感があり集中出来ますよね。お仕事と言えるほどの収入にはならないかも知れませんが、避難所で、仮設住宅で過ごされている方々にちょっとしたお小遣いと思って参加して頂けたら嬉しいです。

ニットでハートを繋ごうプロジェクト 代表

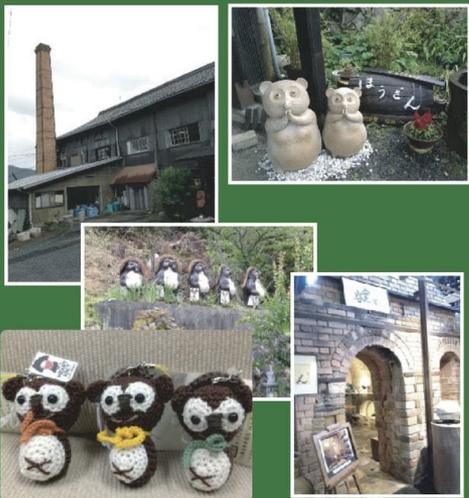
担当

連絡先 / 岩手県盛岡市大通3-11-1 旭ビル1F スポーツデスク内 Tel

ニット作品



滋賀県信楽町「谷寛窯」
ギャラリー「ほうざん」



狸のストラップ

山田養蜂場「みつばち農園」



ミツバチのストラップ



早石町
アイスクリーム「松ほっくり」



アイス ストラップ



ほっくりちゃん

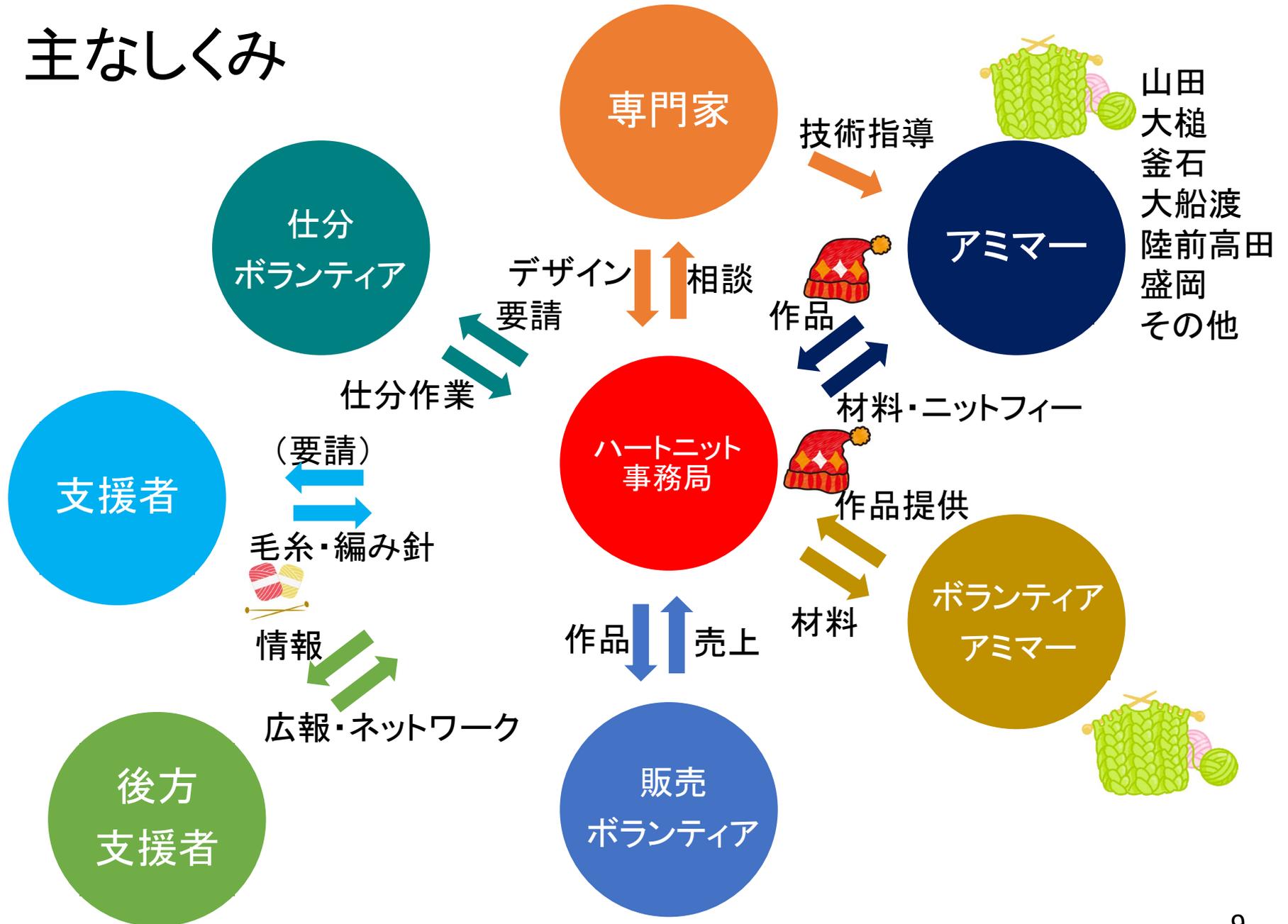


盛岡 そば処「東家」



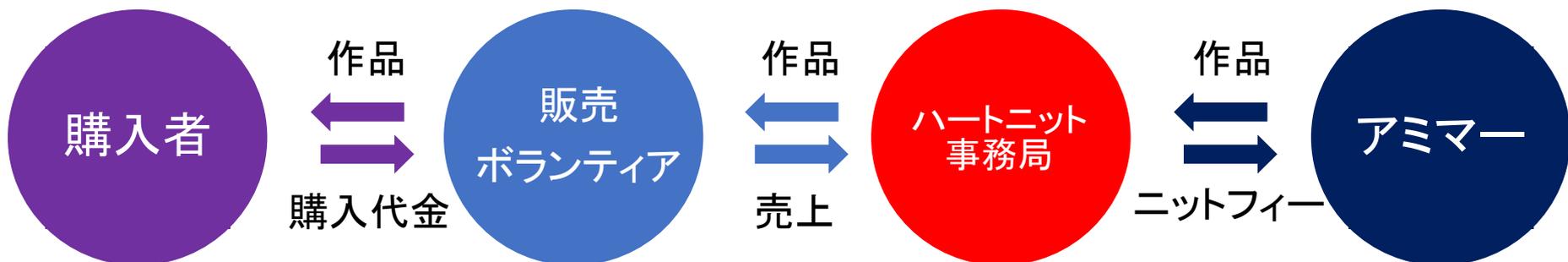
そばっちストラップ

主なしくみ



ニットフィーと諸経費

アミマーに渡るニットフィーは、購入代金の全額



材料費は全国からの毛糸の現物支援

諸経費は、ボランティアアミマーの作品の売り上げで賄う



ボランティアの支え (ボランティア経済)



- 毛糸の仕分け
- 材料管理
- デザイン提供
- 技術指導
- 搬送(毛糸出荷)
- 作品回収(作品入荷)
- タグ縫い付け
- 値札貼り
- ラッピング
- 在庫管理
- 出荷
- 入金確認・売上計算
- ニットフィーの支払い・振込
- 販路の開拓
- 販売会設営
- 接客
- マスコミ対応
-

無償

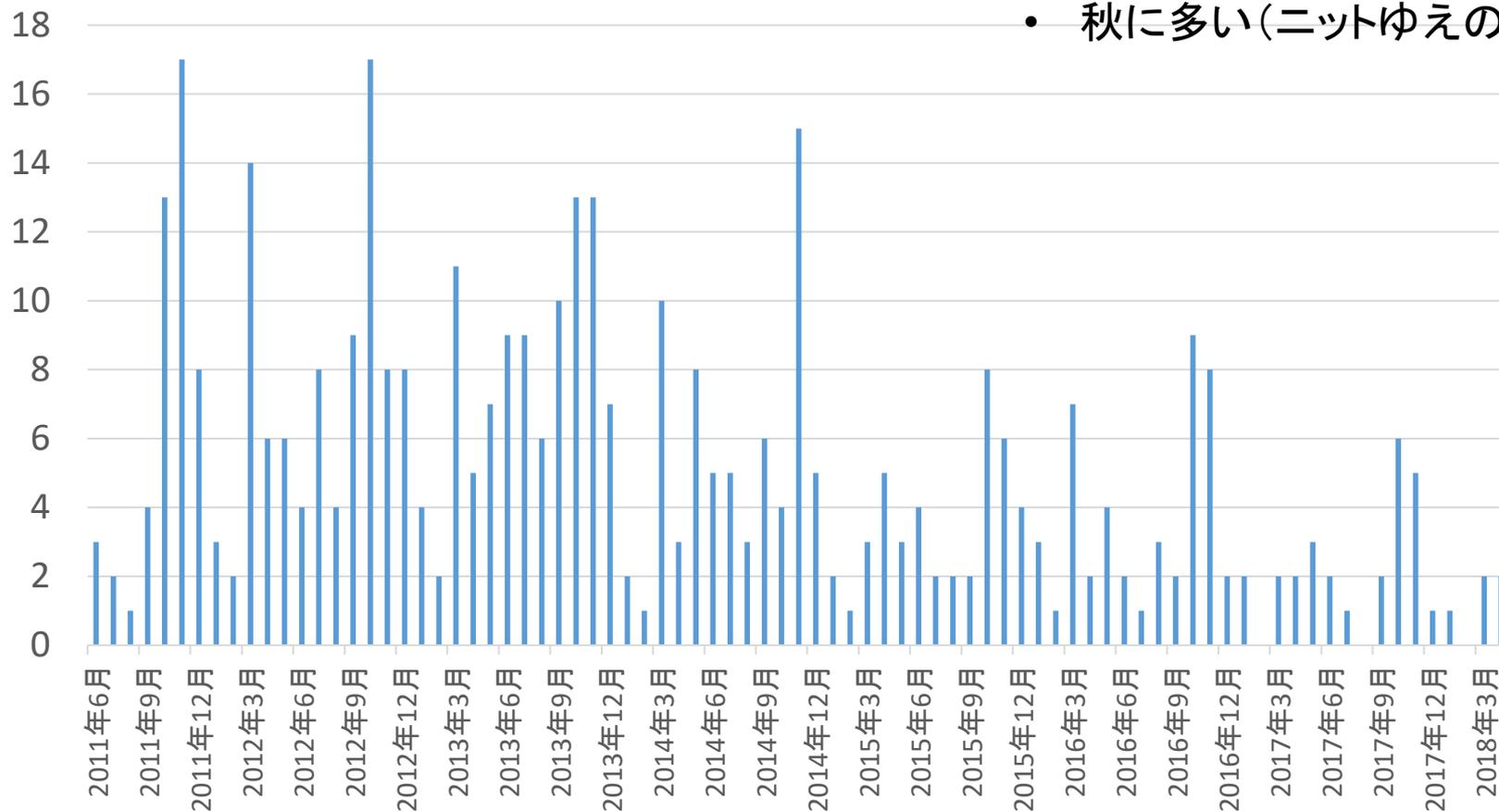
活動の展開1

- 各地での販売会
 - 総回数417回、総延べ日数831日
 - ハートニット大津の活躍
- 常設販売
 - 協力店、スキー場等
- 東北ヘルプからつながった銀座教会
 - 東北ヘルプの後方支援
 - 教会ネットワーク(バザー、ボランティア)
 - 銀座教会での販売(2012年6月と8月)

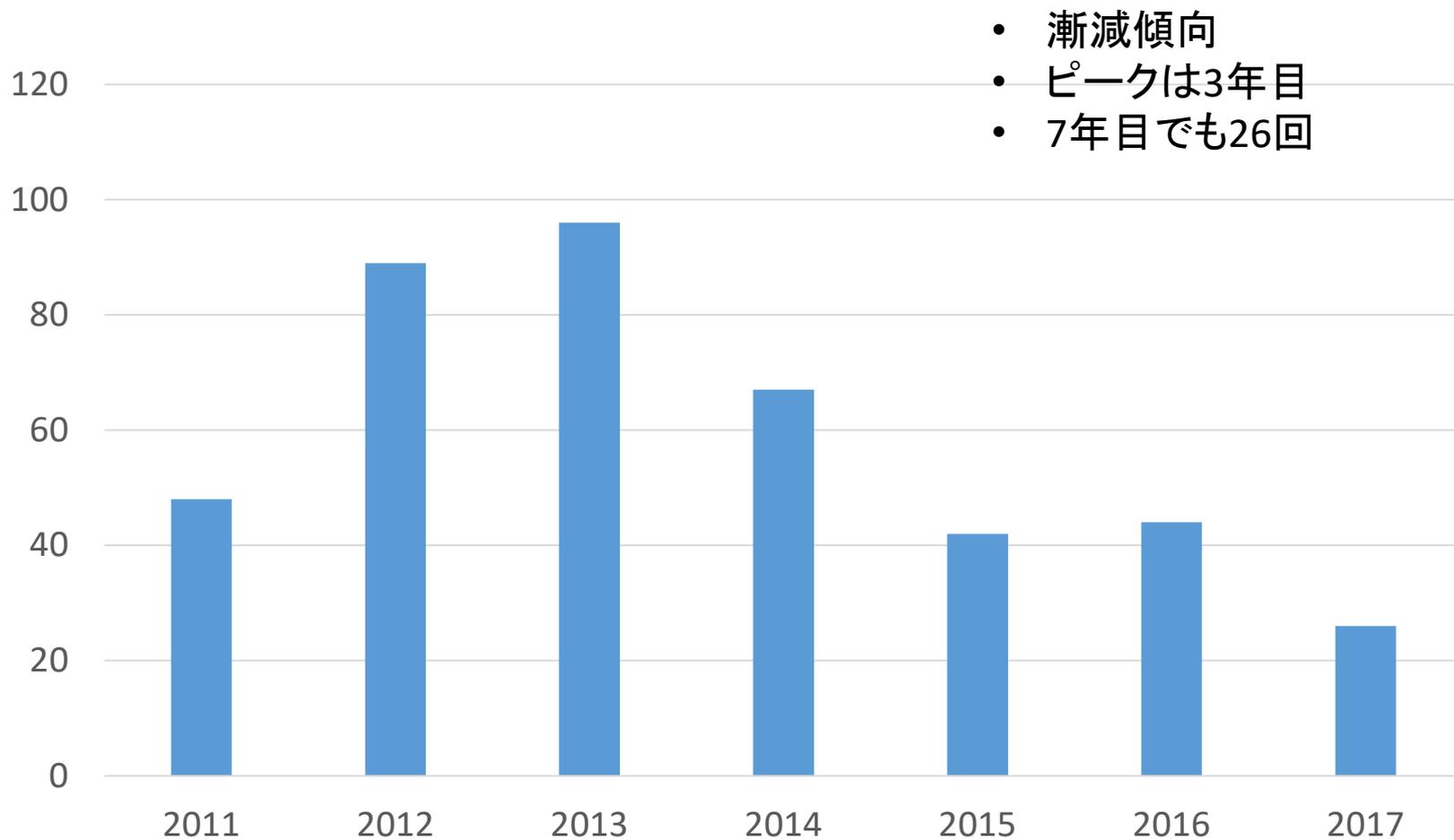


販売会の開催回数(月別)

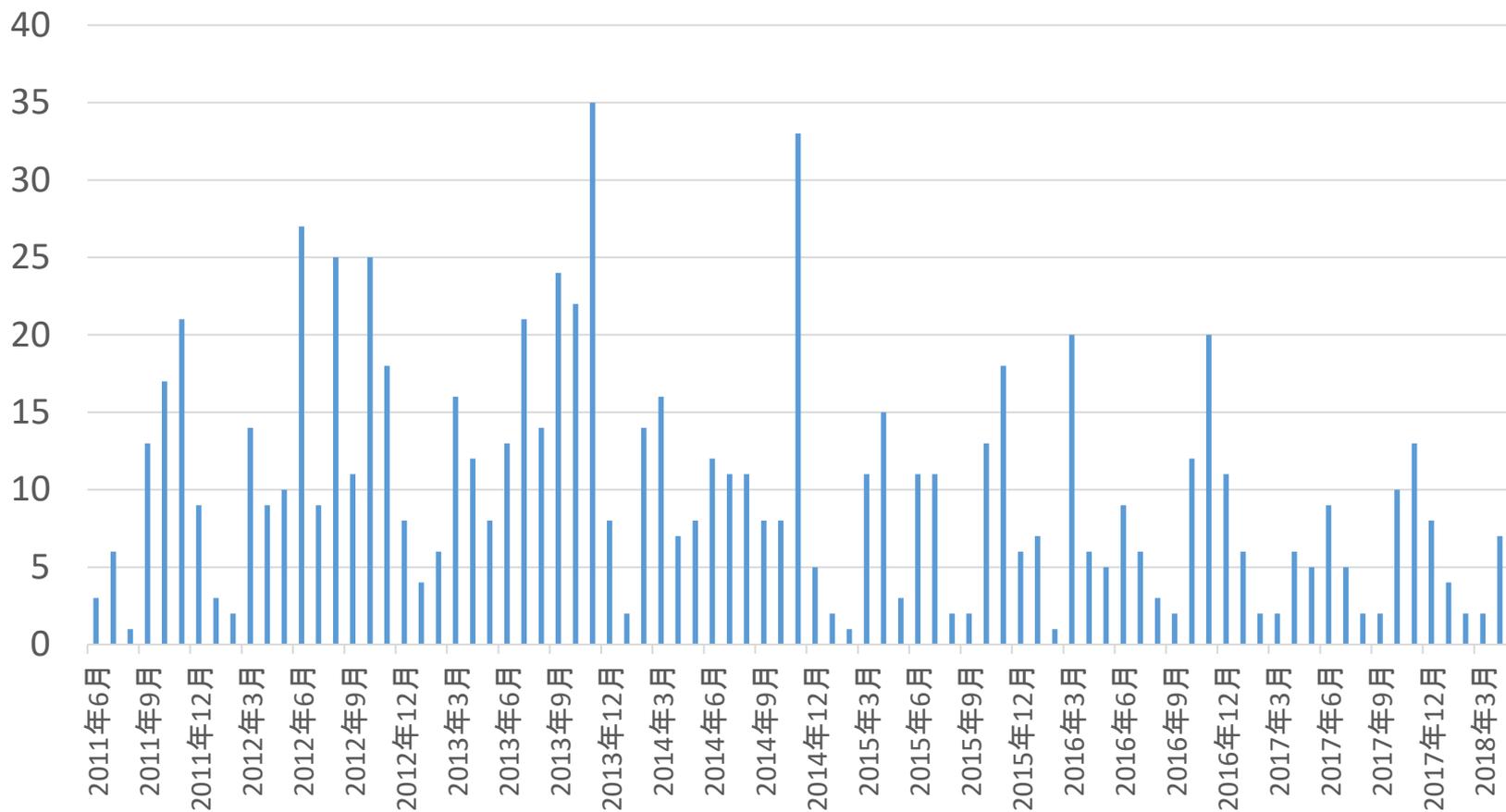
- 緩やかな漸減傾向
- 秋に多い(ニットゆえの需要)



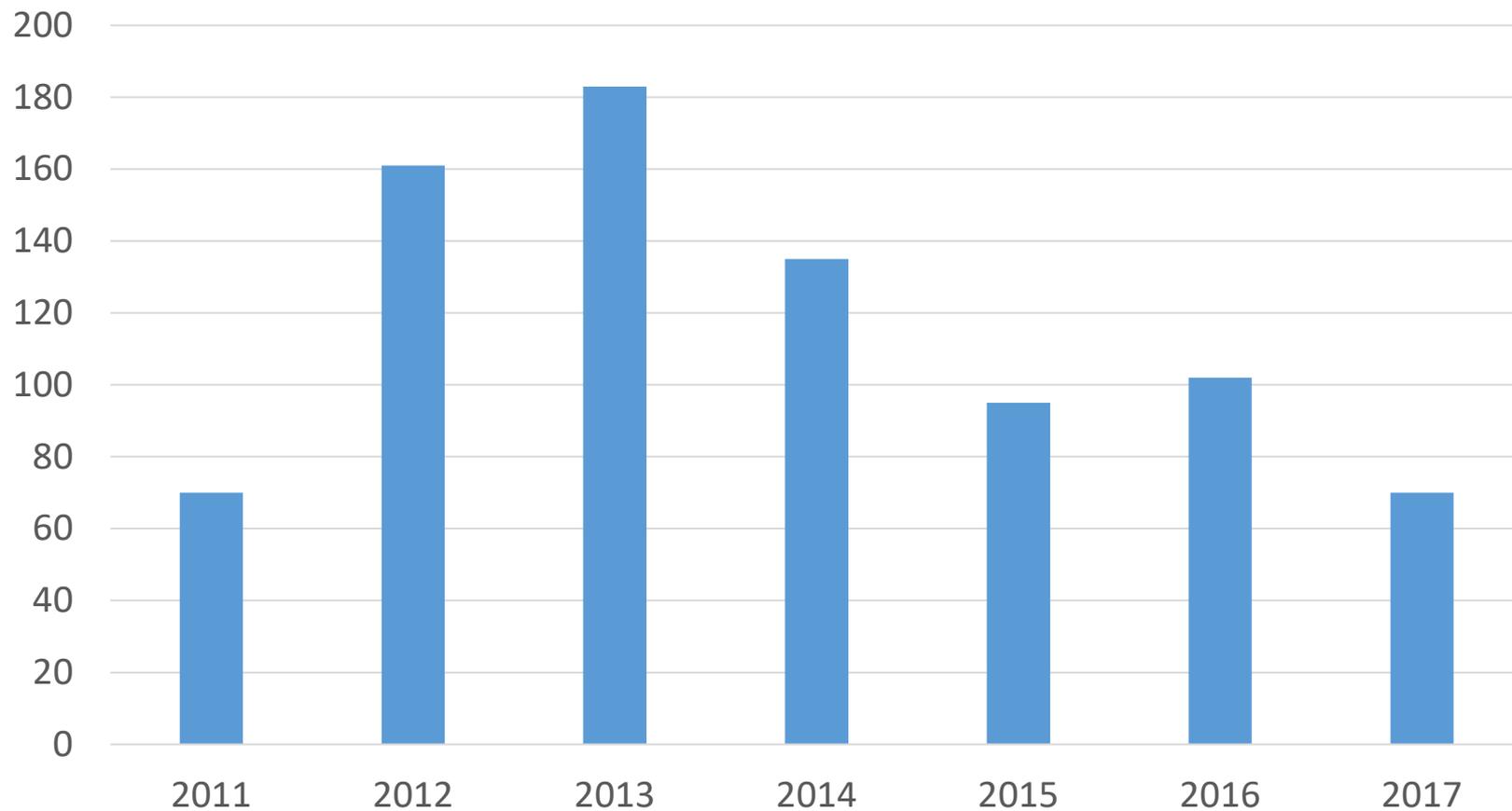
販売会の開催回数(年別)



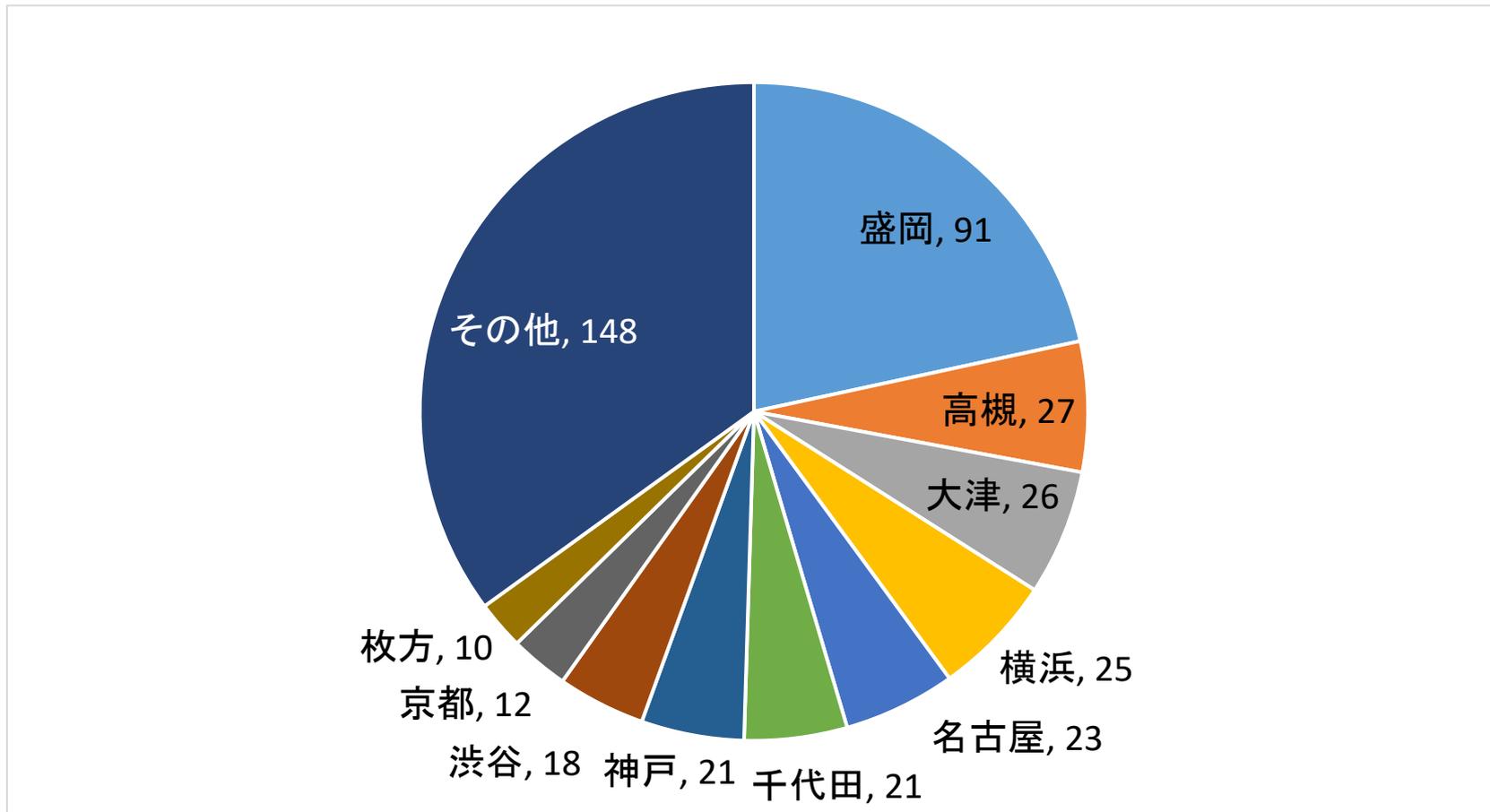
販売会の開催延べ日数(月別)



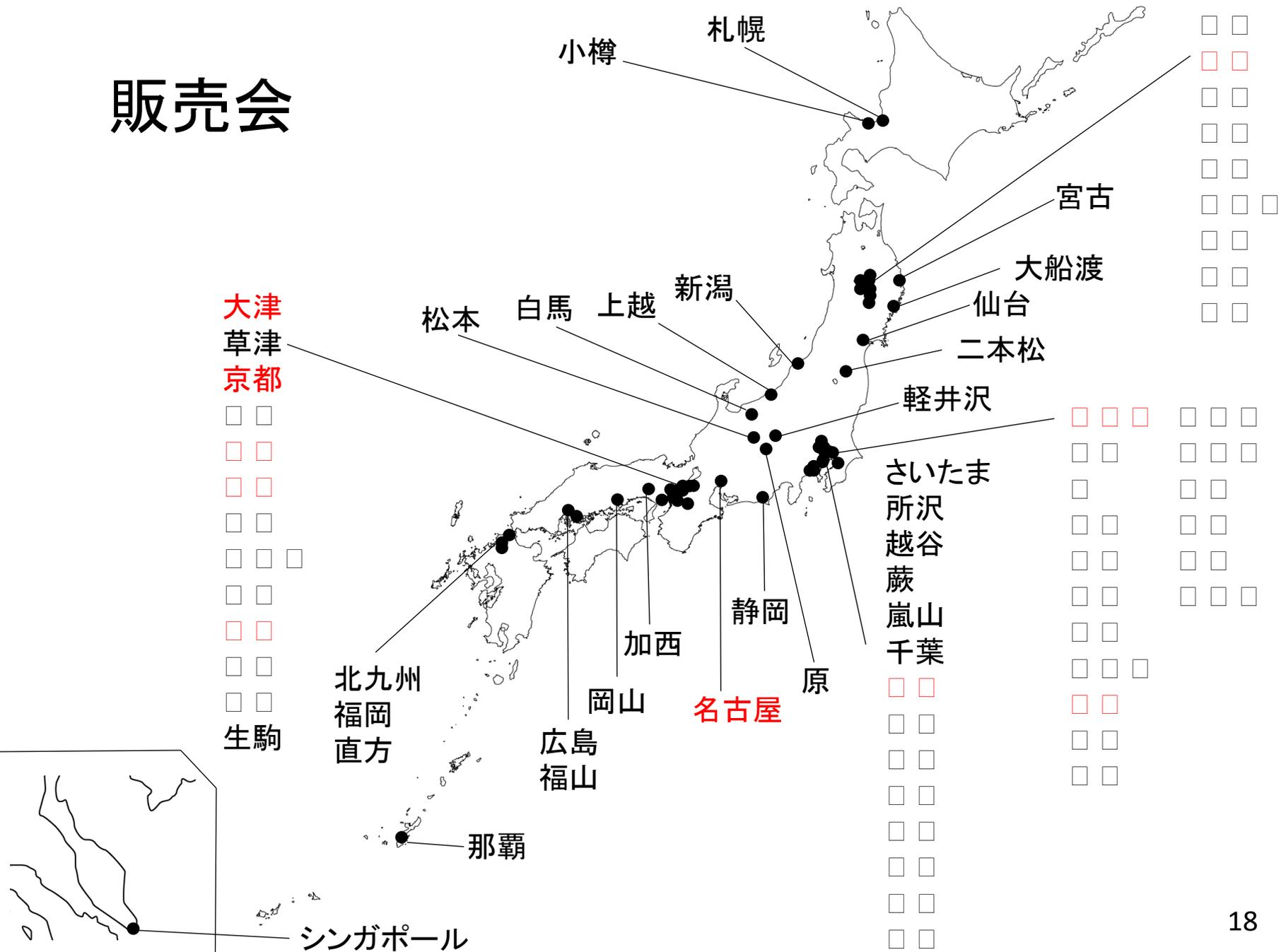
販売会の開催延べ日数(年別)



販売会の開催市町村(回数)



販売会



活動の展開1（再掲）

- 各地での販売会
 - 総回数417回、総延べ日数831日
 - ハートニット大津の活躍
- 常設販売
 - 協力店、スキー場等
- 東北ヘルプからつながった銀座教会
 - 東北ヘルプの後方支援
 - 教会ネットワーク(バザー、ボランティア)
 - 銀座教会での販売(2012年6月と8月)



活動の展開2

- 銀座教会からのつながり
 - ゴルフダイジェストchoice
 - 安定的顧客(2012年秋号より23冊掲載)
 - 東京ユニオンチャーチ(以後、毎年6月、12月2回)
 - サンケイビル販売会(春、秋年2回)とともに定期的販売機会
- アミマーの自立と失敗(東家)
 - フランチャイズ的自立の試み
 - 編み物は得意だが、コミュニケーション下手
 - 再度、事務局管理に戻す
 - 「自立」再考の契機に



活動の展開3

- 網ニット(株)とのやりとり
 - スキーつながりの網ニット社長がハートニットの作品に関心
 - セーターの首の部分をつる仕事の依頼(機械編みと手編みとの違い)
 - 1枚100円/10分(効率の良さ)。仕事確保のために受注。山田町Gに斡旋。
 - ここから、ステップアップして MARGARET HOWELL の製作
 - ※英国の有名デザイナーズブランド
 - 毛糸もデザイン(編み図)も先方指定で受注、納品
 - 当初は網ニットと山田町Gとの間に事務局が介在→直接取引へ(自立)
 - 仕事としての編み物製作(市場経済への参入)
 - 高度な下請け化と自立との区別。当事者の対等性、交渉能力。
- その他の企業とのタイアップ模索
 - 国産帽子メーカー(Ca4la) その他

活動の展開4

- 撤退へ
 - 販売会時のボランティア不足
 - 代表の介護問題
 - 山田町Gの自立の目処
 - 大槌で被災して盛岡に移住したアミマー・・・カワトクでの常設販売
 - 2019/5/10 解散式・・・「ハートニット・プロジェクトのボランティア部門の撤退」
- 解散後をどうするのか
 - 市場経済参入組(自立組)の把握・・・全部で20名程度か？
 - その他のアミマーへの仕事の割り振り
 - 復興段階での活動の模索
- 新生ハートニット・プロジェクト
 - 市場経済への全員の参加
 - 複数企業との取引開始
 - ネットショップの開設(2019)と閉鎖(2024)

被災女性がプロに 毛糸で編んだ復興

「あの時、おなかにいた女の子がこの春、小学校に上がりました」。震災翌年、産経新聞東京本社がある東京サンケイビルで初開催された展示販売会場でニットを売っていた当時28歳の福地ひとみさん(34)が、第2子の長男を胸に抱いて現れた。運営や販売を支え続けた1人の女性の成長に、活動の道のりが重なる。

今日10日、盛岡市のわんこそは店「東家」で開かれた解散式。「アミマーさん」と呼ばれる沿岸部の編み手と各地のボランティア総勢80人が万感の思いで集まっていた。

「改めて感謝しかない」と岩手県山田町の吉田富子さん(73)。同町の吉田ヤス子さん(73)、佐々木美彌子さん(73)とともに「明日からは力を合わせて自立していく」と決意を新たにしていた。家業はともに漁業。自宅と船を津波に奪われ怖かった「途方に暮れた」と振り返るが、目の前の顔は自信と希望にあふれている。

ハートニットの「奇跡」(上)

平成最大の災害、東日本大震災から8年あまり。令和を迎えるなか、一つの復興が実現した。津波で大切なものや人を失った女性たちが編んだニット小物を、ボランティアが販売し全額を還元する「ハートニットプロジェクト」(本部・盛岡市)。

一流アパレルから受注するまでに腕を上げ、各人がプロ職人として自立する「発展的解散式」を迎えた。避難所に「心の癒やし」として届けられた毛糸玉が大きく育った軌跡には、社会学者も注目。普通の女性たちが成し遂げた再生の「奇跡」を、上下2回に分けてリポートする。

(重松明子、写真も)

「発展的解散式」で、プロとしての決意を新たにした山田町のアミマーさん。自作のおめかし
—10日、盛岡市



近ごろ都に流行るもの

約30人のアミマーさんと契約を結んだ企業は現在7社。英国ブランド「マーガレットハウエル」。「M.&KYO KO」の佐藤織維などが名を連ねる。「今、南三陸チームで展示会に出品しています。受注が来るかドキドキなのは、宮城県南三陸町の西城たえ子さん(69)。「津波でまじが消え、ご近所もバラバラになったけど、ニットによって新しい仲間に出会え、励まし合ってこられた」

技術指導に当たってきた編み物講師の村上祐子代表(77)は「心を鬼にして編み直してもらったこともあったが、もう十分な実力です」。

活動の始まりは震災翌月に



筆者が集めたハートニットの小物。個性豊かな新作を楽しみにしていた

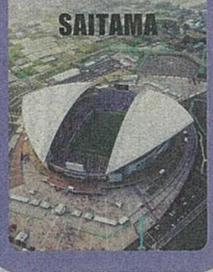
約30人のアミマーさんと契約を結んだ企業は現在7社。英国ブランド「マーガレットハウエル」。「M.&KYO KO」の佐藤織維などが名を連ねる。「今、南三陸チームで展示会に出品しています。受注が来るかドキドキなのは、宮城県南三陸町の西城たえ子さん(69)。「津波でまじが消え、ご近所もバラバラになったけど、ニットによって新しい仲間に出会え、励まし合ってこられた」

技術指導に当たってきた編み物講師の村上祐子代表(77)は「心を鬼にして編み直してもらったこともあったが、もう十分な実力です」。

活動の始まりは震災翌月に

埼玉

SAITAMA



さいたま総局
〒330-0063
さいたま市浦和区
高砂1-2-1
電話 048-829-2311(代)
FAX 048-830-1091
saitama@sankei.co.jp
広告 048-834-1211

購読申し込み
0120-70-3034
配達・集金
0120-34-4646
紙面・記事
0570-046460

Web
http://www.sankei.com/
region/region.html

(21日)
旧4月17日
【友引】



あすのしよみ

月齢	16.2
日出	4:33
日入	18:46
月出	21:07
月入	6:17
満潮	5:26
	19:14
干潮	0:08
	12:25
大潮	(東京)

考察1

	時期区分	keyword	
第1期	立ち上げ期	生きがいづくり 販売事業・cash for work	復旧段階
第2期	自立模索期	フランチャイズ方式 支え合いの拡大(「ニットでつながる」)	
第3期	展開期	市場経済への参入 仕事と生きがいのバランス	復興段階
第4期	撤退・改編期	支援者のvulnerability (missionの再設定・「自立」「復興」の問い直し)	

- 復興段階におけるアミマーの**多様性**とそれへの対応
- 復興の踊り場と次なるステップ
 - ボランティア経済の不安定性・・・支援者の脆弱性vulnerability
 - 自立の芽を生み出したこと・・・一人ひとりの自立の積み上げ
 - 生きがいづくりの継続可能性
 - ゴルフダイジェストからの安定的な受注と表参道での販売会の持つ意味
- 次の組織編成
 - 市場経済参入(自立)卒業型・・・残った人のサポート体制問題
 - 包摂型(支え合いー自立)型・・・〈コミュニティ集合経済〉？

考察2

- 「復興」とは？
 - 被災地における「復興」をめぐる閉塞状況
 - 新生ハートニット・プロジェクトの抱える諸課題
 - 山積する課題とその乗り越え
 - 将来に対する賭け

清水亮,2020,「復興グッズに見る自立と支援ーハートニットプロジェクトの展開」,吉原直樹,山川充夫,清水亮,松本行真編著,『東日本大震災と〈自立・支援〉の生活記録』,六花出版

...こうした課題は、事務局でも、とうに把握している。把握しているからこそ、その実現に向けて新生ハートニットを立ち上げたのだ。乗り越えるべき課題が見つかるということは、この先、自らが何に向かっていけばよいかのかわかるということにほかならない。次にすべきことが見つかり、それに向かって一歩踏み出す。これらの課題は、希望そのものでもある。いい方を換えれば、それこそが復興段階の歩みなのだ。ここでは述べておきたい。

その主旨は以下の通りである。津波被災地の沿岸部では、進捗の遅れが指摘されながらも高台移転や防潮堤建設、区画整理、復興住宅建設が進行している。こうした事業が一段落する頃、被災地では「復興」という語が用いられるようになってくる。だが、被災地の人々に話を聴くと、新しい家、新しい街を得ても、先の暮らしに希望が持てたわけではなく、不安も解消されたわけではない様子である。将来への某かの展望が開けない閉塞状況下の「復興」などだろうか。家や街が更新されても、それだけでは依然、復旧段階に留まっている。そこから先に進むには、希望が必要だ。

復興が将来への希望、展望を含む概念であるとするれば、新生ハートニットの誕生は、まさにこの活動が復興段階に突入したことにほかならない。もちろん、全てが上手くいくことはないだろう。明るい未来が保証されたわけでもない。でも、賭けてみようと思える可能性を発見できたこと、未実現だからこそ実現に向けた努力をしようと思えること、そのように当事者が思って次の一步を踏み出したこと。それこそがここでいう復興段階の主体像である。復興段階のハートニットの行く末がどこに辿り着こうとするのか、今しばらく観察を続けていこう。

※「未検証の可能性 untested feasibility」(パウロ・フレイレ, 1970=1979, 『被抑圧者の教育学』亜紀書房)